寄 書

中世地震史料の収集について (1): 大般若經奥書・棟札

京都大学理学部地球物理学教室*

中西 一 郎・矢 野 信

Collection of Medieval Materials for the History
of Japanese Earthquakes (1): Daihannyakyo-
Okugaki (Colophon Written in Great
Wisdom Sutra) and Munafuda
(Ridge Board)

Ichiro NAKANISHI and Makoto YANO

Department of Geophysics, Kyoto
University, Kyoto 606-8502, Japan

(Received December 2, 2002;

Accepted January 31, 2003)

§1. はじめに

従来の地震史料収集においては、主に古文書・古記録などの文献史料が対象にされてきた。しかし、江戸幕府開府以前の地震発生・被害に関する文献史料は非常に少なく、歴史地震研究における課題の1つである。中世に発生した地震に関する史料であっても、それが近世に書かれた編纂書であることも多く一次史料の割合は少ない。

異種のデータを調査することにより上記の課題を克服できる可能性があり、さらに日記など、古記録の内容を点検することにもなる。非文献史料（大蔵經・大般若經の識語、棟木・棟札・仏像などに書かれた銘文）中の地震に関する記載を積極的に収集することは意義あると考えられる。

本論文の目的は中世地震史料を収集する方法の1つとして、大般若經奥書・棟札調査の可能性を示すことにある。中世には入らないが、興味深い地震が多数発生した天正、文禄、慶長期も調査期間に入れる。今回の調査において近世に発生した地震に関する史料も見つけた[中西(2002a)]が、ここでは省略する。宝永地震(1707年10月28日)に関する史料が多く見いだされた。

§2. 大般若經奥書

大般若經（大般若波羅蜜多經）は平安～鎌倉期に村落（惣村）にも流布し、現在まで伝存している。奥書に書かれた様々な事柄（ここでは地震に関する記載）は一次史料またはそれに近い場合が多いと考えられる。時間精度が良い反面、記載位置の精度が良くない場合があることに注意する必要がある。

調査結果を Table 1 の史料 1～6 に示す。史料 2・5 はすでに『新収日本地震史料 補遺』[東京大学地震研究所(1989)]に収録されている。史料 5 は中西(2002b)によって再調査されている。中国・四国・九州でも史料が見つかっており、京都・奈良以外の地域においても中世に発生した地震に関する一次史料を収集できると考えられる。Table 1 にある史料 1 と 6 の原文を Table 2 に示す。史料 1 は京都府立丹後郷土資料館提供の写真および京都府教育庁にある大般若波羅蜜多經調査カードによる。応永二十年十一月十五日から約 2 カ月間地震が群発したことを示している。史料 6 は『大分県史 中世篇 III』[大分県(1987)]による。文禄五年豊後地震および津波が閏七月九日に発生したことを決定づけるデータである。

§3. 棟 札

棟木・棟札は紙製史料を所蔵していない寺社にもあり、紙製史料よりも位置精度が良い。建物に被害を与えるような大地震が書かれている。調査結果を Table 1 の史料 7～11 に示す。史料 7, 9 は『西伊豆町誌 資料第一集 神社・寺院並びに棟札編』[西伊豆町教育委員会(1994)]による。史料 7, 8, 9 はすでに『日本の歴史地震史料 拾遺二』[宇佐美(2002)]、『新収日本地震史料 第二巻』[東京大学地震研究所(1982)]に収録されている。『日本の歴史地震史料 拾遺二』[宇佐美(2002)]には棟札銘の表・裏が収録されているが、史料 7 の翻刻は正確でない。

『統古地震』[萩原尊禮(1989)](p 356)、『古地震探求』[萩原尊禮(1995)](p 195)において、山本武夫氏は、明応七年八月二十五日地震については「伊豆半島西海岸に（中略）明応時に近い頃の根本史料は未だ発見されてなく、江戸期の史料から地震像を可能な範囲で描かねばならないのが現状である。」と述べ、慶長九年十二月十六日地震についても「伊豆半島では原史料が全くない上に、江戸期の記述にも正確さを欠き、（中略）慶長十年の分には九年地震を示唆する文章は見当らない。（後略）」と述べている。中村・西山(1998)も明応地震の史料を再検討しているが、「明応東海地震関連史料のある地点（図 1）」の中に伊豆半島はない。

* 〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

Table 1. Earthquakes and materials collected in this study

Daihannyakyo-Okugaki (Colophon written in Great Wisdom Sutra) (大般若經奥書)

番号	西暦(年)	和暦(年月日)	所蔵地	名称等
1	1413	応永二十年霜月十五日	京都府瑞穂町薬師寺	巻第332 奥書
2	1520	永正十七年三月七日	広島県世羅町永寿寺	巻第442 裏打紙
3	1538	天文七年正月二十日	京都府京北町普門院	巻第239 奥書
4	1550	天文十九年六月二十二日	奈良県奈良市興福寺	巻第138 奥書
5	1596	文禄五年閏七月九日	愛媛県松山市薬師寺	巻第17 奥書
6	1596	文禄五年閏七月九日	大分県国東町興導寺	巻第424 奥書

Munafuda (Ridge Board) (棟札)

番号	西暦(年)	和暦(年月日)	所蔵地	名称等
7	1498	明応七年八月二十五日	静岡県西伊豆町哆胡神社	大多胡鎮守文亀三年再興願棟札
8	1596	文禄五年閏七月十二日	奈良県奈良市唐招提寺	開山堂慶長二年再建棟札写
9	1498 1605	明応七年八月二十五日 慶長九年十二月十六日	静岡県西伊豆町佐波神社 静岡県西伊豆町佐波神社	三嶋大明神御寶殿慶長十年再興 棟札
10	1611	慶長十六年八月二十一日	福島県喜多方市熊野神社	新宮慶長十九年修造棟札
11	1611	慶長十六年九月(十月カ) 二十八日	岩手県大迫町早池峰神社	薬師本宮舞殿鳥居客殿慶長十七 年造立棟札

注) 西暦(年), 和暦(年月日)は地震又は津波が発生した年, 年月日を示す。

Table 2. Examples of Daihannyakyo-Okugaki (大般若經奥書) and Munafuda (棟札)

<p>【史料1】 大般若波羅蜜多經 卷第三百三十二 奥書 (京都府船井郡瑞穂町 薬師寺所蔵) (成立年不明) 応永廿年癸巳自霜月十五日大地振始テ明ル午歳正中マテ地振スル也 近代加様之地振無云々</p>
<p>【史料6】 大般若波羅蜜多經 卷第四百二十四 奥書 (大分県東国東郡国東町 興導寺所蔵) (文禄・慶長年中桜八幡神社宮司豪泉による) 文禄五年丙申閏七月九日大地震仕豊後奥浜悉ク海成人畜ニ二千余死ス 前代未聞条書付申畢 (異筆)「奥浜計ニ一万人死ストモ」当宮司豪泉記之</p>
<p>【史料7】 大多胡鎮守文亀三年再興願棟札 (静岡県賀茂郡西伊豆町田子 哆胡神社所蔵) 〈表〉(前略)伊豆州仁科(中略)両郷以助成如此再興津波以後□當社成就□ 願主建誌之 岢文亀參歳癸亥六月念八日 〈裏〉(異筆)八能谷奈可禮久以爾之衛今毛安末祢具屋取月陰 □□</p>
<p>【史料9】 三嶋大明神御寶殿慶長十年再興棟札 (静岡県賀茂郡西伊豆町仁科 佐波神社所蔵) 〈表〉豆州仁科庄(中略)于時慶長十乙巳年二月吉日 〈裏〉戊午年之なみ寺川之おうせきまで又その後 九十九年而申ニ甲辰年十二月十六日ニかき之内之横なわてまで入也 末世ニ其御心得可有候事 願榮志類す</p>

しかし、西伊豆町の哆胡神社、佐波神社には棟札の現物が保存されていることが確認できた (Table 1)。史料 7 と 9 の原文を Table 2 に示す。史料 7 (文亀三年 (1503) 成立) には明応七年地震による津波、史料 9 (慶長十年成立) には明応七年・慶長九年地震による津波についての記載が見られる。

§ 4. 結 論

大般若經奥書・棟札を調査することにより、京都・奈良以外の地域においても、日本列島の歴史地震研究に必要な一次史料の収集を 15 世紀初期まで遡ることが可能であることを示した。中央構造線・糸魚川静岡構造線の活動、明応七年・慶長九年の東海・南海地震の研究に用いる事が出来る。

謝 辞

宮田光眞氏、伊藤 太氏、地主智彦氏、佐久間明成氏、山本 繁氏、真野 静氏、間野修平氏、川原 清氏から史料調査へご協力頂きました。また野田泰三氏、根立研介氏、大槻 信氏、今給黎哲郎氏から有益な助言を頂きました。皆様方に感謝いたします。調査には 2002 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (B) (1)) 「歴史史料および

地質痕跡調査に基づく海溝型巨大地震の再帰性に関する研究」(代表者: 都司嘉宣) を用いた。

参 考 文 献

- 萩原尊禮, 1989, 続古地震—実像と虚像, 東京大学出版会, 434 pp.
- 萩原尊禮, 1995, 古地震探求—海洋地震へのアプローチ, 東京大学出版会, 306 pp.
- 中村 操・西山昭仁, 1998, 明応東海地震 (明応 7 年 8 月 25 日) の史料状況について, 歴史地震, **14**, 183–192.
- 中西一郎, 2002a, 中世地震史料の収集 (1): 識語, 棟札等非文献史料, (社)日本地震学会講演予稿集, 2002 年度秋季大会, P 186.
- 中西一郎, 2002b, 文禄五年閏七月九日 (1596 年 9 月 1 日) の地震による伊予での被害を示す史料, 地震 **2**, 55, 311–316.
- 西伊豆町教育委員会, 1994, 西伊豆町誌, 資料第一集, 神社・寺院並びに棟札編, 403 pp.
- 東京大学地震研究所, 1982, 新収日本地震史料, 第 2 巻, 575 pp.
- 東京大学地震研究所, 1989, 新収日本地震史料, 補遺, 1222 pp.
- 大分県, 1987, 大分県史, 中世篇 III, 530 pp.
- 宇佐美龍夫, 2002, 日本の歴史地震史料 拾遺二, 583 pp.